

茨高は先生方がとても親切で、勉強と向き合える環境がそろっていることが大きな魅力だと思います。先生方はみんなとても教育熱心で、授業も丁寧です。私は数学が本当に苦手で、入学時に数学の教科書を読んで絶望していたのですが、担当の先生のご指導のお陰で数学に対する考えが変わり、数学に対する拒絶反応がなくなりました。また、多くの生徒がよく職員室に質問に行っていて、先生方も優しく答えてくださるため、職員室に分からない箇所を質問しに行くというハードルが低いです。先生方は身近な頼れる存在として、小さな勉強の悩みから進路選択、受験まで親身になって一緒に向き合ってくださいます。私は塾に通わず受験に挑戦したのですが、受験科目の基礎部分の確認から、レベルの高い問題の実践まで、様々な先生に支えてもらえました。面接の対策としても、丁寧な面接練習や普段の先生との会話、普段から努力している友人の意見が力になりました。放課後になると残って勉強をしている友人も多く、最後の最後まで努力できる環境でした。

私は吹奏楽部に所属していました。入学当初、茨高の吹奏楽部は東関東大会に出場するような強豪校というイメージがあり、強豪校の練習についていけるのか、勉強との両立が可能なのかという不安で胸がいっぱいでした。しかし入部してみると、先輩や後輩は皆暖かい人ばかりで、勉強を重んじるということをお互いに理解して支え合っていました。実際、課外授業を受けてからでも部活動に参加することができたり、分からない課題の問題を先輩に教えていただけたりと、皆で勉強を頑張れる環境でした。その上で充実した部活動ができ、東関東大会や全日本高等学校吹奏楽大会 in 横浜に出場することでレベルの高い音楽を追求したり、多くのコンサートに参加することができるため、思い切り”高校の部活動”を楽しむことができました。

茨高は他の私立高校と比べて比較的少人数で学力でのクラス分けがないため、私にあっていて感じて茨高を選びました。実際に、得意科目をお互いに教え合うなどクラスみんなが仲良くできる環境で、多くの友人と関係を深めることができました。一貫生とは、部活動を通じて仲良くなりました。一貫生は高入生よりも進度が早いこともあって最初は先輩のように感じてしまっていたのですが、みんなフレンドリーで人見知りの私でも仲良くなることができました。実際に、相談を聞いてもらったり、クラスが離れていても毎日会っていたりした一番信頼の置ける友人は、一貫生の生徒でし、高校1年で仲良くなった高入生の生徒とも、大学生活が始まって住む場所が離れてからも連絡を取り合っています。本当に、茨高でできた友人たちは私の宝物です。お互いを知る事ができる機会があれば、一貫生も高入生も関係ないと思います。

大学では、障害を持つ人の支えになりたいという幼い頃からの夢を軸に、心理学や社会学などの観点から人間について深く学びたいと思っています。茨高で出会うことのできた友人や部活動の仲間、恩師への感謝の気持ちを忘れずに勉学に励んでいきたいです。